

特別寄稿**山口大学医学部附属病院
再開発整備事業について**

山口大学医学部附属病院 病院長

杉 野 法 広



本院では、現在、大規模な再開発整備が進行中ですのでご紹介申し上げます。今回の整備事業では、現在進んでいる新病棟の完成後も引き続き、既存病棟や外来棟の改修などが行われ、平成 37 年まで病院全体にわたり整備が行われます。この整備事業は 2 度目となりますが、2 度目の整備事業を国から認められたのは国立大学病院の中で山口大学が初めてです。そのシンボルとなる新病棟の建設は、順調に進んでいます。平成 31 年の 6 月 24 日に開院予定です。この新病棟は、地上 14 階、地下 1 階の構造です。新病棟の特徴は、

高度急性期医療の充実と機能強化です。その柱の 1 本目が、1 階に入る先進救命救急センターです。20 床すべてが集中治療の機能を備え、CT や血管造影装置も配置します。屋上にはヘリポートを設置しますので、全県からの重症な救急患者さんを受け入れます。3 階には集中治療部(ICU)が入り、現状の 12 床から 16 床へ増床します。4 階の手術室は、現在の 12 室から 16 室へ増え、血管造影装置や MRI を完備したハイブリッド手術室もでき、高度な手術を迅速に提供できるようになります。高度急性期医療のもう一つの柱となるのが、

6 階の総合周産期母子医療センターです。新生児の病床数が 4 床増え、より多くの重症な妊産婦や新生児の受け入れが可能となります。6 階から 12 階は入院患者さんのフロアです。職員の動線の短縮化、見通しの良いオープンスペースのスタッフステーションの設置などが特徴で、「見守りハイケア病棟」と名付けています。この一般病棟には、呼吸器内科の 20 床が入ります。増加している肺がん、慢性閉塞性肺疾患等の呼吸器系疾患に対する機能を強化し、同



新病棟イメージ図（東側外観）

時に山口県で不足している呼吸器内科専門医を増加させます。

新病棟は、災害時にも力を発揮します。災害が発生しても電源は確保され、先進救命救急センターや手術室、ICU の稼動が停止することはありません。さらに、平時は講義や講演で使用する 1 階の大講義室（オーディトリウム）は、災害時には広大なトリアージスペースとなります。外来玄関からは、新病棟の建築状況が間近に見えます。様々な機能を備えた新病棟の完成を我々職員は楽しみにしていますが、県民の皆様にも、大きな期待を持っていただいていると思います。

山口大学医学部附属病院は、様々な高度な機能を備えた山口県で唯一の特定機能病院です。本院でしかできない手術や検査、治療などが多くあります。今年は、広報を充実させて、このような情報を発信し、県民の皆様本院の第一線の治療を広く知ってもらえるようにします。そして、県内だけでなく県外の患者さんにも最先端の医療を提供したいと思います。山口大学医学部附属病院は、将来にわたって、皆様の健康を守ります。

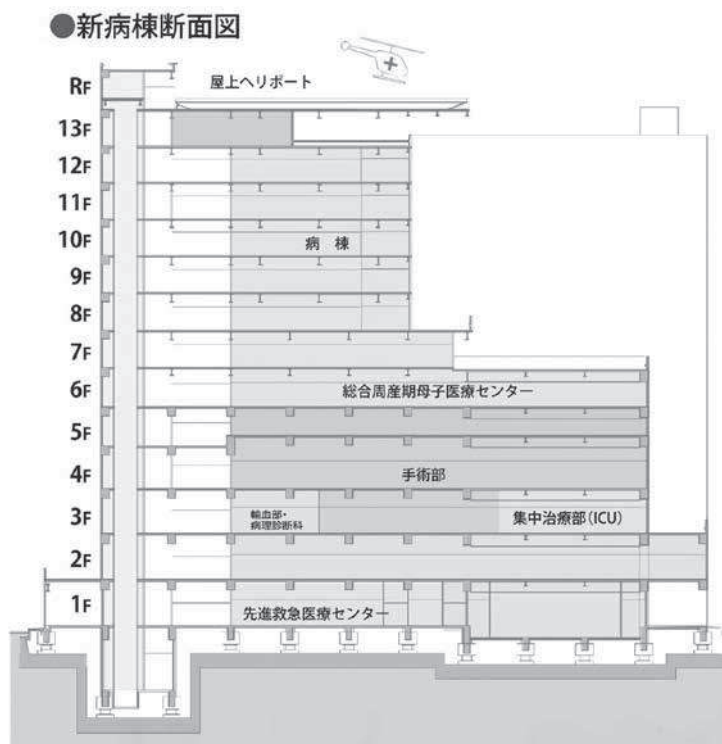
大学病院の役割としては、「将来を担う医療人を育成すること」、「医学・医療の進歩に貢献できる高いレベルの研究や医療を行うこと」も重要です。若手の育成、優れた人材の発掘、そして山口県に定着する医療人の確保が医学部附属病院の使命です。山口大学医学部附属病院では、医療人育成センターを設置し、医師、看護師、検査技師、薬剤師など全ての医療人のキャリア形成支援を行っています。また、先進医療開発を世界に発信するた

め、基礎研究を実用化に繋げる“橋渡し研究”を推進しています。再生・移植医療としての再生・細胞治療センターの設立、企業との連携による医療・検査機器の開発、新しい治療法の臨床研究等で実績を挙げています。

最後になりましたが、今後も山口大学医学部附属病院をよろしくお願い申し上げます。



新病棟イメージ図（北側外観）



新病棟イメージ図（断面図）